



事業実施内容

本事業は公共水栓を通して現地の人々に水を供給するB to Cビジネスである。ウガンダでは水道に接続していない家庭が水を得る手段の1つとして公共水栓がある。地域にある公共水栓にバケツを持参し、管理人にお金を支払うことで水を購入する。しかし、公共水栓の管理人が不在時は買うことができず、毎回現金を準備しなければならなかった。管理人が水の料金を不当に値上げする事例や、売上金を盗難する問題も発生していた。本事業は日本の交通系ICカードのように、事前にお金をチャージし、タッチするだけで水が買える電子マネー決済システムを公共水栓に搭載することで、現地の様々な課題を解決することを目的としている。



↑ 現地の子供が利用している様子
← 建設した公共水栓
↓ 配布したカード



事業成果

2024年7月、カウンターパートである水環境省とキックオフミーティングを実施。市場を中心にニーズ調査を行い、公共水栓建設候補地を選定。同年11月にと基本合意書(MOU)を締結。商店が並ぶマーケットエリアを中心に給水施設を5基建設し、同年12月に事業を開始した。

事業計画から調査、現地との調整、建設作業、そして事業実施まで6か月という短期間で実現できたのは、カウンターパートが迅速な対応をしてくれたことが大きかった。

事業開始後、既に多くのユーザーが利用している。キャッチフレーズである"Amazzi Ga'bonna"は「Water for all」という意味であり、カウンターパートのメンバー達がアイデアを持ち寄り、複数の候補名の中から投票して決定した。

今後の事業展開

今後は5基の公共水栓のモニタリングおよび得られた利用データから顧客の分析を実施。カウンターパートと定期的なWeb会議による双方のフィードバックを行い、持続可能な給水施設の維持管理を目指す。

カウンターパートが推奨する次の候補地を対象に給水施設を普及させる。将来は近隣国にも展開し、キャッチフレーズ通り全ての人に水が行き渡るサービスへと展開させていく予定。